



開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	021016102		
講義名 Course title (Japanese)	比較文化論 A		
英文講義名 Course title (English)	Comparative Culture A		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester (s)	前期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour (s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	水曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	大行寺キャンパス		

所属名称	ナンバリングコード
	C2-CCT101LJ

担当教員 Lecturer (s)

職種（専任教員・非常勤教員） Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer (s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 齋藤 正憲		発達科学科心理学専攻

授業の内容（主題） Course description

パンを焼く乾燥アジアとご飯を炊く湿潤アジアでは、自ずと生活様式が異なり、社会組織、ひいては家族の在り方まで大きく異なってくる。かくして、地域性を色濃く残しつつ、世界各地にさまざまな文化が醸成されてきたといえる。そのような伝統文化は、近代以降、グローバリゼーションの荒波に晒されて、劇的な変容を強いられてもいる。しかし、それでもなお温存される「古層」があるとすれば、それこそがまさに「文化の本質」といえるであろう。しかし、個別の地域研究に頼ってばかりでは、そのような「古層」はなかなか見えてこない。比較文化論の観点から、乾燥と湿潤の「境界」にこそ、目を凝らすべきなのだ。

本講義では、主としてアジアの諸文化を検討の俎上に載せ、乾燥と湿潤がせめぎ合う「境界」に着目しつつ、アジア文化論を構想する。結果として、受講生のみさんの裡に確固たる「アジア観」が芽生えるのなら、これに勝る喜びはないと考えている。

到達目標 Course objectives

1. アジア、とりわけ東アジア、東南アジア、南アジアの歴史的・地理的概要を把握し、かつ、比較文化論の観点から眺めることができる。
2. 独自の「アジア観」を自らの裡に構想し、目まぐるしく変動する国際社会における指針を獲得する。
3. 比較文化をめぐるさまざまな学説・方法論に触れ、それを活かした探究へとつなげる。

ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy

- ◎：非常に強く関連する
○：強く関連する

△：関連する
空欄：該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	◎
②激変する国際社会の中にあつて、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	◎
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	◎
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	◎

授業計画表
Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	導入①：アジアを俯瞰する視座 和辻哲郎、丸山真男、梅棹忠夫、松田壽男、中根千枝、松本健一、内田樹といった先賢の学説に触れることで、アジアを俯瞰する基礎的な力を涵養する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第2回	導入②：「アジア的」ということ 吉本隆明が著した『アジア的ということ』の内容を紹介するので、考察し、比較文化論の基本的な視座をさらに豊かにしてほしい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第3回	湿潤アジア①：乾燥と湿潤を跨ぐ中国 中国の歴史と文化を検討する。中国4000年の歴史からは、ある傾向を読み取ることができるのである。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第4回	湿潤アジア②：韓国は「洪水型」か？ 韓国の文化を扱いながら、丸山真男による洪水型／雨漏り型の学説について考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第5回	湿潤アジア③：台湾アイデンティティ 台湾の歴史と文化を概観する。とくに、本省人／外省人／原住民という民族構成が反映された複雑なアイデンティティについて、みなさんと考察してみたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第6回	湿潤アジア④：東南アジア大陸部 中根千枝によって「A群」に分類された東南アジア大陸部を扱う。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第7回	湿潤アジア⑤：東南アジア島嶼部 「海の大国」インドネシアを中心に、島嶼部東南アジアについて考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第8回	境界のアジア①：混沌のインドで想うこと インドの歴史と文化について考察する。中東（エジプト）や日本と比較することで、インドの本質に迫りたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第9回	境界のアジア②：黄金のベンガル バングラデシュの歴史と文化にして考察する。とりわけ工芸の面で、バングラデシュは境界の特色を湛えている。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第10回	辺境のアジア：ネパールとスリランカ ネパールおよびスリランカについて扱う。両国におけるフィールドワークの成果を紹介する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第11回	中央アジア：草原を駆けるトゥルク 広大なユーラシアを闊歩し、まさに東西アジアを繋げたトゥルクについて考えたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第12回	乾燥アジア①：イスラームの歴史 現在、唯一無二の存在感を示すイスラームについて、その歴史と文化を概観したい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第13回	乾燥アジア②：「アラブの春」のこと ジャスミン革命や9.11、ISの暗躍など、激動のイスラーム情勢について、みなさんと一緒に考えてみたい。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。

第14回	宗教のアジア①：呪術師のいる風景 アジア各地に温存される呪術について、フィールドワークの成果にもとづいて、紹介する。	予習の必要はない。復習として、授業時に示した資料や参考文献をもとに、自ら学んでほしい。そのために、4時間の学修を求める。
第15回	宗教のアジア②：世界宗教と民間信仰 アジアは、呪術のような民間信仰を温存しつつ、さまざまな世界宗教を取り入れてきた。両者の関係について触れ、アジアの構造理解に繋げたい。	講義内容全体を振り返り、独自のアジア観を思い描いてほしい。そのために、4時間以上の学修を求めたい。

授業計画コメント Course outline	講義担当者は、エジプトを皮切りに、台湾、バングラデシュ、インドネシア、ネパール、インド、スリランカにおいて、フィールドワークを重ねてきた。さまざまなアジアで見聞きしたことを、受講生のみなさんと共有したいと考えている。
授業の進め方 Session plan	本講義は対面形式となる。くれぐれも、受講生のみなさんには、積極的な授業参加を求めたい。 また、最終的にレポートを書いてもらう（テーマは後で示す）。そのためには、主体的に考察を行なうことが大事になってくる。結果として何らかの「アジア観」がみなさんの裡に芽生えれば、それは、激しく変化する今後の社会を生きるうえで、重要な指針となってくれるものと期待している。
アクティブラーニング Active learning	講義内での発言・討議に期待したい。また、受講生と相談のうえ、オフィスアワーを設定する予定なので、そちらも活用してもらいたい。
授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours	レポート作成を意識して、自ら、主体的に考察を進めるための学修時間を確保してほしい。

教科書等 Textbooks and materials						
	タイトル Title	著者名 Author (s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions	特になし。
参考図書 Reference book(s)	齋藤正憲 2012 『土器づくりからみた3つのアジア：エジプト、台湾、バングラデシュ』，創成社. 齋藤正憲 2015 『境界の発見：土器とアジアとほんの少しの妄想と』，近代文藝社.

成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria				
	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率％ Evaluation ratio	0%	0%	80%	20%

成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	興味を持ったアジア文化を一つ、ないしは複数取り上げて、レポートを書いていただく。内容は自由とする。是非、積極的・主体的に取り組んでほしい。
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	アジア文化に関する入門的な講座にしたいと考えている。どなたでも、受講可能である。 本講義で得られる基本情報は、以後の、さまざまな研究的授業の助けになると信じて疑わない。



✕ ウィンドウを閉じる

